

「1学期の終業式の日」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 終業式でいちばん伝えたかったこと

あまりに暑い日々が続いたので1学期終業式は全校放送で行うことにしました。生徒の皆さんの顔が見られないのは残念ですが、ともあれ私には伝えたいことがあるので、こうした機会がもてるだけで感謝ですね。

1学期の終業式にあたり、皆さんにまずはお礼を言いたいと思います。誰1人、生命を落とすことなく今日を迎えてくれてありがとう。とても嬉しいです。僕らが出会った最初の日にお願ひしましたね。「自分の生命と他人の生命を大切にしてください」と。お願ひを聞いてくれて、本当に嬉しいです。ありがとう。

僕はほんの1年前に、両親を相次いで亡くしました。9年間にわたって遠距離介護をしてきた末のことでした。今も哀しいです。今も切ないです。でも、僕は今ここに生きています。そのことについて喜びがあります。父と母から授かった生命を、そしてその思いを繋いで生きている、そんな小さな役割を成し遂げていることに喜びがあります。子どもができるいちばんの親孝行は親の生命や思いを繋いで生きることには他ならないからです。

さて、自分の名前を頭の中に思い浮かべてください。例えば僕の名前は浩一と言ひます。一は長男の証です。いかにも昭和的ですが、僕のいとこのうち長男にはみな名前に「一」がつけられています。「浩」という字は「勢いよく広がる水」を表現した漢字です。「広く」で「大きい」、「豊か」などスケールの大きいイメージの字です。

古代中国の思想家・孔子は『書経』の中で「洪水」のことを「浩浩として天にはびこる」と表現しています。両親には「豊かな水のようにおおらかな心を持つ人に成長してほしい」との思いがあったようです。特に父は「スケールの大きい人になってほしい」という願ひを持っていたそうです。その期待に応えられているかは、今も怪しいのですがね。ともあれ名前は自分が生まれてきて最初に贈られるプレゼントです。どんな意味があるか、聞いたことのある人はもう一度思い返してください。聞いたことのない人はぜひ聞いておいてくださいね。

かくして、僕の両親はこの世を離れましたが、この名前という一点において僕らは今も強く繋がっています。だからこそ、今も僕の胸の中で僕の両親は生きています。託された期待に応えられているかどうかはともかくとして、「応えよう」と足掻く人でありたいと思っています。皆さんにも足掻いてほしいと思っています。

とはいえ、つらいこともありますよね。でも、つらいときは「つらい」って言っていひんですよ。自分のことをわかってくれる人に「つらい」って言えば、それだけで気持ちが少し楽になることもあるって、僕は知っています。そんなふうに関ひのことをわかってもらえる人がいるかどうかは、結構大切なことだと僕は思っています。そんな友達がそばにいればいいし、逆に親しすぎる人ばかりで、かえって言えないという人もいます。そんな時はご両親や先生方など、皆さんの周りには多くの大人がいます。ぜひ相談してみてくださいね。

もちろん、反対に「つらい」って言われたら、聴いてあげられる人でいてくださいね。友達の悩みに寄り添える人であつたら嬉しいです。そうそう、不完全でも大人として生きるのは楽しいですよ。皆さんには、是非、日々を楽しめる大人になれるよう、思いを繋ぎながら生き抜いてほしいですね。以上、僕からのお礼とお願ひです。

1学期最終日、壮行会として全国大会への出場生徒は尾野同窓会長から激励の言葉をいただきました。また、生徒全員で生徒指導部長の西岡先生から「思い描いた未来を実現するために心がけてほしいこと」についてお話をいただきました。実に神高生の先輩らしい話でしたね。でも、私には協議会議長の岡田くんがアセンブリーの中で私の通信の中の『蒲公英の話』を読み上げ、「僕らは豊かな土壌に落ちた綿毛だから、そのことを大切にしよう」と話してくれたことも印象的でした。読んでくれて、活かしてくれて有り難う。

